

新しい SAT 試験(redesigned SAT)について

石岡 恒憲・大塚 雄作
独立行政法人 大学入試センター

1 はじめに

カレッジボードが主催するアメリカ大学入学のための共通試験である SAT が、2016 年 3 月から改訂される。改訂のポイントはいくつかあるが、そのうちの一つは「思考の過程や解答への根拠の提示が試されるようになる」ことである。この新しい試験の方式は、現在(2016 年 6 月時点)、文部科学省・高大接続システム改革会議で検討されている「思考力・判断力・表現力」を評価するための一つの方法にもなると考えられる。そこで本稿では今回の SAT の変更点を紹介するとともに、改訂の意図と背景、および目指すものについて、調査した結果を紹介する。

2 改訂の背景とその解釈

ニュースウィーク誌の記事(冷泉, 2014)によれば、今回の改訂である(1)国語(英語)を易しくして難解語彙の知識を要求する問題を減らす、(2)誤答への減点は止めて誤答も無回答も同様に零点とする、(3)2005 年に導入された、数学+英語読解+エッセイ(文法含む)の3科目 2400 点制を止めてエッセイをオプションとし、2科目 1600 点制に戻す、という3点は全て ACT への追随であるとし、これは特に難解語彙の少ない ACT に SAT がシェアを逆転された(ACT の 2014 年版の Annual report によれば 2013 年度の ACT のアメリカにおける高卒受験者は 180 万人で SAT のそれは 150 万人である)ことが直接の要因であるとしている。相対的に数学の比率は 33%(800/2400)から 50%(1600/3200)に上がり、数学のできる人が相対的に有利になった。エッセイがオプションに格下げになった理由としては、カレッジ

ボード(2015a)はその FAQ の中で、エッセイ単独では予測的妥当性が低いことと、アドミッション・オフィサーからの評価意見が分かれることを挙げている。

なお、今回の SAT の改訂は、英数 2 科目の「レギュラー SAT」だけが対象で、もう一つの「統一テスト」である「SAT サブジェクトテスト(通称 SAT II)」には一切の変更がない。

3 主要な変更点

カレッジボード(2015b)によれば、主要な変更点は以下の8つだとしている。

(1) コンテキスト内の適切な単語選択:

再設計された SAT では、関連(relevant)する語彙を適切に選択できるかに焦点を当てるとしている。単語の意味は、その単語をどのように使用しているかによって変わる。学生は読んでいる文章のコンテキストに基づいて言葉の意味を解釈することが求められる。この能力は学生時代においても、またその後の社会においても必要である。適切な語を選ぶ能力を問うことによって、学習方法も変わらざるを得ない。難しい単語をやみくもに覚えるのではなく、注意深い読解こそが授業では重要になるだろうとしている。

(2) 証拠の提示:

証拠に基づいた読解とライティング(Evidence-Based Reading and Writing)セクション、およびエッセイセクションにおいて、学生はなぜそのように解釈・推論したかを、広い範囲の情報源の中から見つけた証拠の提示とともに求められる。その証拠は、図の場合もあるし、文学・ノンフィクション・人文科学、サイエンス、歴史、社会科学などの複

数パラグラフの場合もある。

SAT読解テストでは、与えられたパッセージから少なくとも一つの選択肢の解答をし、次に選択した回答が導かれる証拠についても（選択式で）解答する。この解答のペアが求められる。

SATライティングと言語試験における質問では、証拠の提示に焦点が当てられる。学生は、段落の続き関係が文法的にも意味的にも正しくなるように編集することが求められる。いくつかの質問では、図が出題される。図を解釈し、その図が正しく情報を伝達するように、付随する段落の続き関係を適切に編集することが求められる。

エッセイも証拠の提示を学生に要求する。学生は、提供された課題文を解析し、課題文の著者が読者を説得するために用いている証拠や推論あるいは修辞法を通して、素材（ソース）から得られる証拠や論理的思考によって説得性のある明瞭な分析を回答しなくてはならない。

（３）素材を分析したエッセイ：再設計されたSATのエッセイセクションの焦点は、現在のSAT上のエッセイとは非常に異なるものになっている。学生はパッセージ（文章の一節）を読んで、著者が読者を説得するための議論をどのように構築しているかを説明する。学生は、著者が用いている証拠、推論、および文体と説得力のある要素を通してパッセージの側面を必要に応じて分析する。このタスクは、大学のライティングの宿題にきわめて近いものだとしている。

このような新しいエッセイセクションを行うことにより、高校の授業では、注意深い読解と分析および明確な作文能力を養うようになるだろう。

エッセイプロンプト（指示文）は、事前に与えられ、変わらない。提示される資料だけの変更される。高校の学区によっては、また大学によってはエッセイが必須である場合もあるが、SATではオプションなコンポーネ

ントになっている。

（４）最も重要な数学に焦点：

試験では数学の３つの不可欠な分野である問題解決とデータ解析、代数、高度な数学の入門、に焦点を当てる。問題解決とデータ解析は、定量的なリテラシーそのものあり、理科、社会科学、および実社会における問題を解決するための比、割合、および比例推論（proportional reasoning）の使用を含んでいる。代数は、学生が抽象化の鍵となる線形方程式やシステムの習得に焦点を当てている。高度な数学の入門は、より複雑な方程式とその操作の精通に焦点を当てている。

現在の研究では、これらの分野は、専攻によらず最も大学やキャリア訓練のための準備に貢献することがわかってきている。上記の領域に加えて（大学やキャリアに最も関連すると考えられる）幾何学と三角法（三角形の角の大きさと辺の長さの関係をを用いる手法）を試験的に追加している。

（５）実世界コンテキストに根ざした問題：

再設計されたSATを通して、学生は現実の世界に根ざした質問、すなわち大学やキャリアの中で行われた作業に直接的に関連する質問に取り組むことになる。

証拠に基づいた読解とライティングセクションにおいて、読解問題では、文学とノンフィクションだけでなく、チャートやグラフ、および理科や社会科学、それ以外の分野からも出題される。学生は、エラーを修正することだけを質問されるのではなく、それ以上のこと、すなわち人文科学、歴史、社会科学、およびキャリアのコンテキストからの文章を編集・改善することが問われる。

数学のセクションでは、理科、社会科学、およびその他の現実問題を解決するための応用問題について、いくつかの段階を踏まえて解答する。学生にはシナリオが提示され、それに沿ってのいくつかの質問をされる。これは学生に状況について深く掘りさげ、検討し、それを数学的にモデル化することを要求して

いる。

(6) 理科と歴史/社会科での分析：

再設計された SAT において、読解、ライティング、言語、数学のテストでは、理科、歴史、社会科のコンテキストが出題される。このような質問に答えるスキルは、大学においても、仕事においても、また生きてゆくなかで、最新のことや政治情勢、グローバルな出来事、健康と環境などのさまざまな問題において重要であるとしている。

学生は、これらのテストで出されるような少し難しい挑戦的なテキストや情報を与えるグラフに出会うことがあるだろう。したがって、質問では、文章を読んで理解し、論理矛盾がないように、図が示している通りに文章を改訂し、理科や社会の知識に基づいた問題解決をすることが求められる。

(7) 米国建国文書やグレートグローバルカンバセーション：

独立宣言、権利章典、およびフェデラリスト (アメリカ合衆国憲法の批准を推進するために書かれた 85 編の連作論文) を含む米国建国の文書は、アメリカ市民生活に影響を与え続けている。建国文書は初期のアメリカを背景としており、国内外の作家、論客、思想家にそって起草された。エドモンド・バーク、メアリ・ウルストンクラフト、およびマハトマ・ガンジーなど。彼らは自由、正義、そして人間の尊厳を広め、会話を深めていった。再設計された SAT では、建国文書やグローバルカンバセーションの一節から出題される。再設計された SAT は、これらの豊富な、意味のある、しばしば深遠なテキストに触れる機会を触発する。これは大学やキャリア生活を豊かにするだけでなく、この問題や市民であること (citizenship) に深く向き合う機会を与えるとしている。

(8) 不正解の解答は減点されない

再設計された SAT では答えを間違っても減点されないようになる。正解したときに限ってポイントを獲得する。正解のみの得点へ変

更することにより、学生が最良の答えを出すことを奨励する。

4 現在の SAT と再設計される SAT との比較

4.1 College Board による評価

SAT の運営母体であるカレッジボード (2015c) によれば、今回の改訂は、“college readiness and success” と呼ばれる「大学に入るための準備ができていることと大学での成功」のために最もクリティカルなものが「スキルと知識」であり、これを最もよく反映するように再設計したとしている。そしてこれにより試験は、トピックの数が少なくなり、より制約的 (stronger command) になった。

カレッジボードはあくまでも今回の改訂は“Strong Research Base”によるものであることを強調している。試験の妥当性 (validity) を強固にするよう設計され、証拠に基づいた論拠を示す解答形式についてレビューされたという。以下の 4 大学による実証研究が参照されたとしてカレッジボードの Web ページにその名前がある。

- デューク大学
- コーネル大学
- テキサス A&M 大学
- カリフォルニア大学バークレイ校

また、2013 年以降 80 以上の大学での打ち合わせを設定したとしている。

4.2 プリンストン・レビューによる評価

30 年以上の歴史があるアメリカにおける大学進学指導で有名なプリンストン・レビュー (Princeton Review) 社によれば、「再設計される SAT」の内容は、もう一つの共通テストである ACT に非常に近づくものになるとしている。今回の改訂では、学生は問題を解く過程での根拠 (理由づけ) が求められるようになった。情報を素早く処理する能力がキーになるだろうとしている。再設計される SAT がより取り汲みやすくなると思われる点は以下の通りである。

- 誤答に対して減点がない
- 多肢選択において5択から4択になった
- テストされる語彙のいくつかはより親しみ易いものになるだろう。その代わり、語彙の複数の意味を知っておく必要がある（だろう）。

一方、新しいテストの方が困難だと思われる点は以下の通りである。

- 一つの設問に対し多段階のステップを踏んで解答しなくてはならない。
- 読むべきパッセージ（文章の一節）は複雑な構造と語彙を含む。
- 基礎的な数学能力がより重要になる。
- 読解と論理的思考力は（依然として）主たる要素となる。
- 新テストではセクションの数は少なくなるが、時間はむしろ長くなる。

テストの設問数と解答時間の比較を表1に示す。読解における時間当たりの設問数が減ったことがわかる。

表1. テストの設問数と解答時間の比較					
現在の SAT			再設計された SAT		
構成要素	時間(分)	設問数	構成要素	時間(分)	設問数
批判的読解力	70	67	読解	65	52
ライティング	60	49	ライティングと言語	35	44
エッセイ	25	1	エッセイ(オプション)	50	1
数学	70	54	数学	80	58
合計	225	171	合計	180(230 : エッセイ含む)	154(155 : エッセイ含む)

4.3 エッセイの出題形式

カレッジボード(2015d)が事前にサンプルと出している（新しい形式の）エッセイ問題のプロンプトは以下の通りである。

「あなたは下のパッセージを読んで、ポールボガード（Paul Bogard ; 映画監督）が以下の項目をどのように使用しているかを検討し

なさい。」

- 主張を指示するための証拠，たとえば事実や例など
- アイデアを展開し，主張と証拠を接続するための理由づけ(reasoning)
- その考えをより強固にするための文体や説得力のある要素，たとえば言葉の選択や感情の訴え

人名（ポールボガード）の箇所やこの後に続く資料の部分は差し替えがあるが、プロンプト自体には大きな変更がないとしている。

4 おわりに

今回の改訂のうち、「(2) 証拠の提示」と「(3) 素材を分析したエッセイの出題形式」は、回答の根拠を明確に示すもので受験者の「思考の過程」を把握しようとする試みであると評価できる。また、エッセイ出題形式の変更も、これにより採点の観点により明瞭になるだけでなく、従来の主観から、客観を踏まえた主観の評価に軸を移していると考えられる。

参考文献

- ACT (2014). 2014 Annual Report, <http://www.act.org/aboutact/pdf/AnnualReport2014.pdf>
- Collegeboard (2015a). FAQs <https://www.collegeboard.org/delivering-opportunity/sat/faqs>
- Collegeboard (2015b). Redesigned SAT, <https://www.collegeboard.org/delivering-opportunity/sat/redesign>
- Collegeboard (2015c). Changes to the SAT, <https://www.collegeboard.org/delivering-opportunity/sat/higher-ed/changes>
- Collegeboard (2015d). Essay Example 1 of 2, <https://collegereadiness.collegeboard.org/sample-questions/essay/1>
- The Princeton Review (2015). The SAT is changing and we're on it. <http://www.princetonreview.com/SATChanges/>
- 冷泉彰彦(2014). 米 SAT 改訂とアメリカの受験戦争, ニュースウィーク日本語版, 2014 年 3 月 13 日.

連絡先 : tunenori@rd.dnc.ac.jp